

高等学校・第一学年・国語総合

実践名：「異文化理解にもとづく他者とのコミュニケーション」

日時 平成23年 月 日（ ）

指導者 教諭 小濱久典

1 単元名 太陽と月

2 単元について

(1) 単元のねらい

他者とコミュニケーションを取る上で、その人がどのような文化的背景のなかで生活し、どのような価値観を持っているかということに配慮することは、現代社会を生きる私たちにとって必要不可欠な能力のひとつである。異文化理解・他者理解に基づくコミュニケーションを意識させることは、高校卒業後様々な社会に生きていく生徒たちにとって、相互によりよい関係を築くための土台となるものと信じている。

(2) 系統について

本教材は「桐原書店 発見国語総合『太陽と月（鈴木孝夫）』」によった。太陽や月など、誰でも目にしたことのあるものに対する国と国の間での価値観やイメージの違いを題材にした文章で、内容的にも文章の難易度的にも生徒にも理解しやすいものである。評論文の学習については、中学校での学習を踏まえ、より精密な読解を目指したい。

(3) 生徒の実態について

生徒は授業中や日常生活において友人同士でのコミュニケーションを積極的に図ることができる。しかしながら、公的な場や普段あまり関わりのない大人とのコミュニケーションには消極的な面を持っている者もいる。自己と他者との相対的な違いを認識することで、自己の内面を表現し、他者の考えを受け入れる姿勢を身につけさせたい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、本文の読解にとどまらず、そこから生徒自身が日常の中に見られる価値観の違いや他者と自己との相違について、具体的な事例を挙げながら考えさせるようにしたい。異文化理解や他者理解を一人ひとりの問題として認識させ、よりよい社会を自らが主体的に作る態度を養いたい。

(5) 情報モラル教育上の観点

ア 情報社会で円滑なコミュニケーションを図る素地として、様々な価値観の存在に気づき、受容的態度で他者と接する能力を養う。

イ 他者に配慮した情報伝達のあり方について考える。

(6) 人権教育上の留意点

ア 他者の様々な考え方や価値観を受容する態度を育てる。

3 単元の指導計画

全四時間

本文通読・読解…三時間

まとめ・考察 …一時間（本時）

4 展開

過程	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習をふり返り、本時の学習内容を確認する。 ・本文の内容をふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を確認させ、本時の見通しを立てる。 	
	2 太陽に関するイメージの違いとしてあげられている国と、その内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽の色に関する比較と、太陽という存在の持つイメージの比較が例示されていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対比を用いた論の展開を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・補助プリント
	価値観や習慣の違いから生じる問題にはどのようなものがあるだろうか			
展開 40分	3 考え方の食い違いについて身近な例を取り上げて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的背景の違いによって生じる食い違いの例を提示して、様々な価値観が存在することに気づく。 		
	多様な価値観の混在する現代社会で、私たちはどのように生活するべきか			
	4 様々な価値観のある社会の中で、どのように生活するべきか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会において、様々な価値観を持った他者との関わりの中で、コミュニケーションはどのようにあるべきかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者理解に基づいた、情報発信のあり方について考え、主体的に行動することができる。(情報モラル教育上の留意点) 	
終末 5分	4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの意見を採り上げ、今後の過ごし方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国同士だけでなく、個人間でも多様な考えがあることを確認する。 	